



忠義太平記

七

八達三
1.479
7



門 八 13
部
卷

忠義之事記大全卷第七



目録

中良助子春源六と海録之事

大善子とていひさうする

源六と十間形悪とたむらう

寫林祐重の筋道格よけ事

寫林母とていひさうする

を母自害うとていひさうする

ASAKA

011

いいつらつとて。縁てゆゑうひひ。またうらと。唯、意、あ、ま、
 一、つ、ら、つ、と、て、十、四、日、よ、う、考、へ、ま、ら、ば、い、の、ひ、ひ、也、也、切、
 の、後、こ、う、け、る、な、り、ま、り、い、だ、は、な、の、こ、う、目、ら、
 出、り、つ、と、い、ひ、尾、む、ち、門、の、こ、う、十、四、日、よ、う、が、武、大、友、の、
 人、く、と、出、立、は、あ、れ、い、ま、下、拵、と、地、を、人、と、して、ま、ま、
 は、る、へ、さ、し、ひ、ひ、う、秘、て、た、門、の、よ、ま、の、山、始、ま、り、か、う、
 あり、い、へ、の、均、河、作、は、る、ま、ど、く、い、新、堀、い、ま、新、の、せ、ら、也、
 礼、と、と、べ、と、な、り、ま、ま、源、さ、ひ、り、あ、ま、し、と、て、ま、ま、こ、
 そ、ち、か、ま、あ、ら、く、い、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
 助、く、り、の、り、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
 ひ、り、い、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
 本、十、四、日、の、尾、む、ち、の、が、武、大、友、の、人、く、と、招、待、せ、ら、る、



の何のよきもいふ事といふ事なくぞんぞん。御ん引去る男
 此がういふ事のためはさういふのりやせにらうござらうあはれ
 仕。それといひていつて。い味の人殺すも御ん引去らうあはれ
 そ盟約の味とすもつて死すのむいふらあひびあはれ
 よういひあはれといふ事ざらういひて。い味し移はじとさ
 もん。東伴の縁名をて親父の名をてらう
 先祖よ知とわいふいふてふ孝の身。のぐらういひ
 せうとていふていふ。い味をていふらあひびあはれ
 一が男。もたがさういひあはれ。い味をていふらあひびあはれ
 か。それぞ縁名をていひて。い味をていふらあひびあはれ
 色。い味もあはれ。い味のい。何のい。い味とがめとあはれ
 ま。い味もあはれ。い味のい。い味とがめとあはれ。い味も



て。祐忠もつゝあつ入。又此のおなふしあへきて。あるはれ
亦またが書しよのつ録りくよすこころ。祐忠よ入つて。海うみづるまで
出でづりつる。祐忠つゝあつ入つて。いふ。いづれか
の類るいに。いふも。母ははの自書しよを。いふも。いふも。
血ち。いふも。いふも。今いま。いふも。いふも。祐忠
亦また。いふも。いふも。いふも。いふも。いふも。いふも。
いふも。いふも。いふも。いふも。いふも。いふも。いふも。
いふも。いふも。いふも。いふも。いふも。いふも。いふも。
いふも。いふも。いふも。いふも。いふも。いふも。いふも。
いふも。いふも。いふも。いふも。いふも。いふも。いふも。
いふも。いふも。いふも。いふも。いふも。いふも。いふも。

也。東あづまのよも。いふも。東あづまのよも。いふも。いふも。
名な。いふも。いふも。東あづまの代しろに。いふも。いふも。いふも。
いふも。いふも。いふも。いふも。いふも。いふも。いふも。
いふも。いふも。いふも。いふも。いふも。いふも。いふも。
いふも。いふも。いふも。いふも。いふも。いふも。いふも。
いふも。いふも。いふも。いふも。いふも。いふも。いふも。
いふも。いふも。いふも。いふも。いふも。いふも。いふも。
いふも。いふも。いふも。いふも。いふも。いふも。いふも。
いふも。いふも。いふも。いふも。いふも。いふも。いふも。
いふも。いふも。いふも。いふも。いふも。いふも。いふも。
いふも。いふも。いふも。いふも。いふも。いふも。いふも。
いふも。いふも。いふも。いふも。いふも。いふも。いふも。
いふも。いふも。いふも。いふも。いふも。いふも。いふも。

かぶくちぎにきりおはるるのひのちとせむれに
 りて。さききりたてまくりはるるのちとせむれに
 じりきりて。さききりたてまくりはるるのちとせむれに
 りて。さききりたてまくりはるるのちとせむれに
 のしむれに。さききりたてまくりはるるのちとせむれに
 と。さききりたてまくりはるるのちとせむれに
 末のちとせむれに。さききりたてまくりはるるのちとせむれに
 婦。さききりたてまくりはるるのちとせむれに
 ののちとせむれに。さききりたてまくりはるるのちとせむれに
 と。さききりたてまくりはるるのちとせむれに
 すぐ。さききりたてまくりはるるのちとせむれに
 の。さききりたてまくりはるるのちとせむれに

あげくまどく。さききりたてまくりはるるのちとせむれに
 く。さききりたてまくりはるるのちとせむれに
 と。さききりたてまくりはるるのちとせむれに
 こと。さききりたてまくりはるるのちとせむれに
 く。さききりたてまくりはるるのちとせむれに
 あり。さききりたてまくりはるるのちとせむれに
 らのちとせむれに。さききりたてまくりはるるのちとせむれに

海内の一葉を愛むる事

あさ。さききりたてまくりはるるのちとせむれに
 たり。さききりたてまくりはるるのちとせむれに
 野。さききりたてまくりはるるのちとせむれに
 つ。さききりたてまくりはるるのちとせむれに

此借の一句とぞよ。ひびかさん事い申しくおめひのうらさ
ば勇のから愛句とゆめこおまじぶよ。後こぞいしうさうり
なく。亡者のあこさうつて。悲愁と報たてしまつたことおを
ひつめらる一念と。天と威怒ましくころあわ。おまじとまを
んあ兆ありごこーか。下けおと。威涙とあぐー。後こび
て。そのおれわらうとまらう絲。子天よあこおて。船がや川よ
ちうつゆい。ゆはく助父子よ。後おのものごりよせうぶ
これこそういづじとあく。亡者のきんぬのつけあうらめ
あふところ。おまじとまをさんとうたぐひあし。天よ。後こ
びつと。おまじのいしよ。さんとて。死者と出ーめて。臣
て。海辺とぞぐー。ころ。こいゆはく助が一味乃士。後系体助
い。おまじとぞいよ。おまじとあひけりけりゆ。おまじとあひけりけり

おまじとぞいよ。おまじとあひけりけりゆ。おまじとあひけりけり
おまじとぞいよ。おまじとあひけりけりゆ。おまじとあひけりけり
おまじとぞいよ。おまじとあひけりけりゆ。おまじとあひけりけり
おまじとぞいよ。おまじとあひけりけりゆ。おまじとあひけりけり
おまじとぞいよ。おまじとあひけりけりゆ。おまじとあひけりけり
おまじとぞいよ。おまじとあひけりけりゆ。おまじとあひけりけり
おまじとぞいよ。おまじとあひけりけりゆ。おまじとあひけりけり
おまじとぞいよ。おまじとあひけりけりゆ。おまじとあひけりけり
おまじとぞいよ。おまじとあひけりけりゆ。おまじとあひけりけり
おまじとぞいよ。おまじとあひけりけりゆ。おまじとあひけりけり

あうぞわいふおれとまうらん
と。一箇のおおと。後母よ。おまじとまを。おまじとまを。おまじとまを
と。一箇のおおと。後母よ。おまじとまを。おまじとまを。おまじとまを
と。一箇のおおと。後母よ。おまじとまを。おまじとまを。おまじとまを
と。一箇のおおと。後母よ。おまじとまを。おまじとまを。おまじとまを
と。一箇のおおと。後母よ。おまじとまを。おまじとまを。おまじとまを
と。一箇のおおと。後母よ。おまじとまを。おまじとまを。おまじとまを
と。一箇のおおと。後母よ。おまじとまを。おまじとまを。おまじとまを
と。一箇のおおと。後母よ。おまじとまを。おまじとまを。おまじとまを
と。一箇のおおと。後母よ。おまじとまを。おまじとまを。おまじとまを
と。一箇のおおと。後母よ。おまじとまを。おまじとまを。おまじとまを
と。一箇のおおと。後母よ。おまじとまを。おまじとまを。おまじとまを

おまじとまを

おまじとまを

宰人の方ありて。金額のたかりあり。此もあらはらりた
を年々よめられたり。其のよしをいへば。其のよしをいへば
の。其のよしをいへば。其のよしをいへば。其のよしをいへば
後世あり。其のよしをいへば。其のよしをいへば。其のよしをいへば
其のよしをいへば。其のよしをいへば。其のよしをいへば。其のよしをいへば
よめられたり。其のよしをいへば。其のよしをいへば。其のよしをいへば
其のよしをいへば。其のよしをいへば。其のよしをいへば。其のよしをいへば
其のよしをいへば。其のよしをいへば。其のよしをいへば。其のよしをいへば
其のよしをいへば。其のよしをいへば。其のよしをいへば。其のよしをいへば
其のよしをいへば。其のよしをいへば。其のよしをいへば。其のよしをいへば

と回るなり。其のよしをいへば。其のよしをいへば。其のよしをいへば
してたまはるなり。其のよしをいへば。其のよしをいへば。其のよしをいへば
んとて。其のよしをいへば。其のよしをいへば。其のよしをいへば
んぞんをうけとり。其のよしをいへば。其のよしをいへば。其のよしをいへば
と。其のよしをいへば。其のよしをいへば。其のよしをいへば。其のよしをいへば
四十七人のものよしをいへば。其のよしをいへば。其のよしをいへば
久助がり。其のよしをいへば。其のよしをいへば。其のよしをいへば
なく。其のよしをいへば。其のよしをいへば。其のよしをいへば。其のよしをいへば
人のものよしをいへば。其のよしをいへば。其のよしをいへば。其のよしをいへば
らのよしをいへば。其のよしをいへば。其のよしをいへば。其のよしをいへば
よ。其のよしをいへば。其のよしをいへば。其のよしをいへば。其のよしをいへば
芝が。其のよしをいへば。其のよしをいへば。其のよしをいへば。其のよしをいへば



らす。一大事の場中しほぞ。それがぐり込ところ。なドよ
らゆ。ふ雲あつぐ。て色人よもらび。を色あく。海トあ
こよひまら。をむどつ。色く入り。三人づ。くも
してあひをころか。またぐひ。だもけあ。んがた。め。又を謀
そこのち。こい。も。な。ち。あ。れ。ん。も。人。と。ま。り。ま
と。あ。ひ。ま。が。て。し。く。ま。さ。ん。の。う。ら。あ。て。一。人。と。び。ま。り
あ。つ。ぎ。ぎ。え。の。い。り。れ。二。人。と。て。あ。抱。し。た。ま。く。べ。一。ま。り
う。ま。あ。し。と。し。も。う。あ。ひ。ぐ。て。も。ま。び。あ。い。く。び。か。り。し。あ。ま。り
く。び。あ。ら。れ。た。も。お。あ。ら。ら。な。ら。ぬ。な。一。ま。な。ま。あ。げ。し。し
あ。る。時。や。り。あ。い。た。こ。い。ま。の。若。奥。の。若。さ。う。れ。つ。け。あ。る。を
こ。か。い。び。さ。し。め。り。あ。ら。う。ま。い。で。こ。い。ま。の。あ。ま。り。の。あ。い。こ
一。丹。ト。ど。の。あ。の。と。み。よ。は。武。家。中。せ。と。ら。う。ま。の。あ。い。こ

と。い。て。し。と。ひ。く。ら。の。由。は。物。ど。の。れ。ま。し。と。ころ。威。い。て
一。い。ぐ。さ。り。あ。つ。う。き。雲。あ。つ。ぐ。ら。あ。べ。一。と。の。あ。ま。あ。く。よ。の。屋
ま。の。い。た。び。ら。二。人。づ。の。つ。ぐ。ひ。色。ま。ま。い。た。ま。け。や。ら。び
れ。あ。げ。や。う。こ。お。よ。あ。つ。て。あ。ら。ひ。敷。う。ら。を。引。り。あ。つ
ま。の。若。奥。と。ま。り。あ。い。こ。い。て。い。ま。の。あ。ま。り。だ。て。あ。て。ら。せ。う。ら。ま
ま。あ。ら。う。ら。あ。わ。し。つ。ゆ。は。良。曲。い。て。あ。い。そ。う。う。い。て。あ。あ。れ
ひ。あ。ら。う。ら。ま。し。て。引。り。あ。つ。う。ま。の。あ。て。あ。て。り。な。ま。あ。の。ま
ま。あ。ら。う。ら。ま。し。た。う。う。ま。の。あ。ま。い。せ。し。よ。強。盜。押。し。あ。い
ど。の。あ。ま。り。あ。わ。あ。ら。し。と。熱。若。と。あ。る。も。の。あ。ま。り。あ。ら。う。ら。ま
て。若。さ。う。の。あ。ら。や。り。あ。い。か。い。ま。り。こ。い。ま。の。あ。ま。り。ま。い
そ。い。ま。の。あ。ま。あ。て。ひ。ま。あ。わ。あ。て。あ。て。法。人。さ。し。丹。ト。ど。の。あ。ま
の。ま。の。あ。ま。り。ま。あ。の。あ。い。ま。あ。ら。う。ら。ま。あ。ら。う。ら。ま。あ。ら。う。ら。ま

くらんぞうらなりくろせがわしむ死飛いのがせわさる
 どさありきそ。初めのものどとに。何のころのほそあつとと
 親と刑戮よあこかりやゆくそのふたてきぶそのまよは
 うとつとせがう。又飛科よあこかりや。そのいり道とゆ
 へど。さうふふめてふたへさ。流飛よあこかりや。その
 へよあつとせがう。何のふまわりや。そのよく六根を
 又味を味。無もく。無おく。又味これ分すのうら。その
 未愛機とつ。一じ。未愛の氣とあつとつ。已愛の
 をあつとつ。性これ流流なり。そのあつとつ。その
 どんべあつとつ。悪とつとつ。そのあつとつ。天地
 飛の機。そのあつとつ。そのあつとつ。そのあつとつ。その
 て。そのあつとつ。そのあつとつ。そのあつとつ。そのあつとつ。

いふ。其の地の根紐ととらと。そのあつとつ。そのあつとつ。そのあつとつ。そのあつとつ。そのあつとつ。

おつり。げゆへ孫子むりく。雷運と申してかうとせむ。
日月とるそ也。をびとり。う。良おの登よあ。わ。わ。
店どのさお。として。こ。し。切。ま。を。申。せん。と。た。が。こ。
ころ。中。が。り。と。ぶ。は。は。助。も。は。ま。げ。ま。ら。ん。い。こ。
よ。い。も。あ。く。と。ま。れ。と。父。子。れ。が。り。い。と。あ。く。ま。あ。く。と。ま。
く。と。い。な。り。の。ら。あ。い。と。あ。り。て。表。裏。別。ん。と。経。を。信。を。
う。あ。う。と。ん。ま。ま。う。う。一。致。和。合。と。あ。い。あ。い。こ。い。ひ。時。
の。死。の。な。び。三。途。の。川。の。先。陣。ぞ。一。統。一。志。の。こ。う。と。せ。
んと。又。酒。り。に。あ。い。ん。で。ま。あ。く。群。ぞ。の。よ。り。は。は。の。
ま。う。り。だ。の。あ。ら。の。酒。あ。う。ち。と。何。と。め。う。う。に。か。を。
ま。い。よ。い。必。死。の。ら。あ。い。て。あ。い。ま。あ。い。ま。い。に。て。い。う。く。あ。い。
ま。い。よ。い。と。又。地。う。酒。あ。り。り。久。助。ま。う。り。出。し。も。あ。

このかのゆそ酒。とわがりふら。そはうんぞれど。今わわがり
ませぐわる。ど。わ。い。ま。は。は。助。下。一。通。と。ま。う。て。わ。う。
酒。と。う。こ。う。あ。い。ま。ま。り。い。ゆ。よ。い。の。か。大。酒。を。り。あ。い。く。
あ。い。わ。助。ま。う。り。の。方。の。趣。を。う。り。と。後。世。と。て。
く。い。あ。い。ら。う。と。う。い。か。遊。は。い。ど。く。あ。い。や。い。も。い。く。と。遊。
舞。の。法。を。さ。ま。い。な。る。ゆ。よ。び。う。あ。う。う。よ。い。ま。い。び。て。は。は。
合。と。い。へ。久。助。さん。が。ま。い。く。い。時。の。お。は。島。地。と。ん。ん。や。
して。商。賣。が。こ。い。ま。う。か。一。く。後。世。と。あ。り。や。と。く。い。い。
が。を。年。せ。る。と。つ。ま。り。や。し。う。ん。ご。ん。を。も。切。る。と。と。う。い。孫。
や。し。い。ゆ。い。孫。子。よ。は。う。り。が。り。ら。う。だ。一。身。も。う。り。の。南。地。よ。
え。あ。り。ゆ。い。飛。塔。の。と。り。つ。ご。あ。い。け。り。ゆ。い。の。子。身。助。と。
いて。それ。い。お。り。海。と。水。他。と。せ。う。と。ぞ。や。南。地。の。世。る。を。

Shinshū Wakana 130-131

ゆらぎ 磯 磯さうんあり。うむらづけう 梨があらう。ちやい
ん。あんのまのとりく。さんぶあんのまのとりくむら。あむら
あていといふ。茅助うらまひ。かこー 強しく。さうづけ
てうたをと

あんたの志をけんさく 強の精い

と。付るれ 寧よはゆらび 大さうらう。さき月おどくいさう
つさの私連句えんあり付一 藪がら仕やうびよさうー
さうづきさうりこよひのほらさうにこれよて今こえつる
ようれ下されと大塚さう人よわく。中島く助多田宗時尾ち
と初め凡雅を好く人あまびていよもあらんむらへいふよとよ
むていよ由将うらと

春の内よ雲井よ若きや 郭一云

あつくさうなすい初と亭主他若うかまうらへはさうづき
と大塚初ある田宗時尾ち若く 明よ也ー 中島
サうらうい何とあつくていさも。うらじ 春の内と云みり。に
季の愛句はうらとあつくよあそむせと中島く助多田宗時

秋の内よらうらうのさあ若きうら 大塚中島の能 玄梅

さうらうのさばよ 珍意のさあ 早稲の能 子美

とぞに今大さうづきこのさき 毛吉の能 里新

松の産まよ百らんりあわや 市田神谷の能 春松

ト畧

あつく一 観一 句よあといと井いのらあらふよあやあんと。四
七人うらまひがう。さきぞ一 藪がらかなるべー。うらたぞくと
うらまひがて。一 同よ産とたら。さうづきとさうらうら

此。時。外。今。そ。と。ゆ。ま。の。い。い。く。く。ま。の。い。い。ま。の。い。い。ま。の。い。い。ま。
い。い。ま。の。い。い。ま。の。い。い。ま。の。い。い。ま。の。い。い。ま。の。い。い。ま。

忠義太平記大金巻第七 終

